

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103974		
法人名	有限会社コミュニティ		
事業所名	グループホームもろびと		
所在地	岡山市南区箕島2900-1		
自己評価作成日	令和1年 3月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和1年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節感の感じられる環境づくり 個性を尊重したケア</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経験豊富で、利用者の気持ちもよくわかる職員が多いので、家族も安心して利用者をお任せ出来るからこそ、ターミナルの時でも、施設で看取って欲しいという意見が出来るくらい、深いつながりが出来ている。 自然の中で自然の物を自然に扱っている事に共感を得る様な佇まいをしている。だから、その自然を生かして散歩をしたり、野菜を作ったりしている。また、肝っ玉母さんの様な管理者は、あっけらかんとしているから、その場で事が終わるくらい、ざっくばらんに話が出来ると出来ている。コミュニケーションが話さなくても出来ている所が、人としての工夫となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にしている取り組みを行っています。	玄関に掲示している。利用者の個性を大事にすることを理念として掲げ、その理念を中心に職員に説明をしているので、職員の個性を活かすよう理念とフィットさせながらケアをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭等に参加し、積極的に交流できるようにしています。	妹尾箕島地区の桜まつりに、毎年、施設のブースを出して、認知症の広報をしたり、手作りクッキーを中学生のボランティアと一緒に配布したりしている。秋には、子供会の神輿が、施設までやってくるので、利用者が子供や神輿と触れ合い、地区の絆を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りの際には、パンフレット等を作成して、認知症やその支援の方法について理解をしていただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの方にも少しずつ理解していただいています。	地域包括と家族、利用者と職員が参加。グループホームの現状を知って頂く会でもあり、家族同士の話し合いでコミュニケーションが深まったり、地域包括からの講話を受けたりするので、認知症の理解を深めてもらう場になっている。参加できない方には、メールや手紙にて報告をしている。	もっと、いろいろな方を呼んで、いろいろな情報を得ては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議等に参加し、意見交換等を通して相互の協力関係の構築に努めています。	提出書類などの窓口は施設長で、苦情の窓口は管理者が行っており、出来るだけ行政と密に情報を交換できる様に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的に身体拘束はしないように、カンファレンスなどで、話し合い必要な処遇を適宜行います。	身体拘束はしていない。ベッド柵の本数を最低限にしたり、玄関のドアの施錠を出来るだけしない様にしたりして、拘束をしない工夫をしている。毎月のミーティングで、ケアを振り返り、パンフレットを参考にして、ボーダーラインを取り決める事でケアの基準を定めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで話し合い、研修等にも参加します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面接を行い、ご理解いただいた上でご入所いただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約前の面接の際に、苦情等の受付方法について適宜ご説明しています。	入所時に、フェイスシートを作成して、本人や家族を把握しながら意向の反映に活かしている。また、日常会話やしぐさ、表情の中から意見を汲み取り、出来る限り反映させている。家族には面会時に積極的に話しかけ、意見等を聞き出し、その人らしくケアができる配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、機会を設けています。	管理者が、何でも話し合える環境を作りたいという思いがあるので、管理者から積極的に自分の仕事や家庭の事もオープンに話しているから、スタッフもそういう個性の方が集まり、風通しが良い職場となっている。また、毎月の職員会議の中でも意見や提案について前向きに話し合得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等通じて、自らの介護を振り返ったり、比較したりする機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修を行い、自らの介護を振り返ったり、比較する機会を設けています。外部の研修等を希望された場合にも、必要な援助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合いながら、必要なサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、できる範囲で日常生活を一緒に行えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と話し合いながら、なじみの人や場所との関係継続に努めています。	入所以前の友達、家族、親戚の来訪があり、居室でお茶を飲みながらゆっくりと過ごせるように配慮している。また、家族が外出に連れ出して、馴染みの人に会いに行くこともある。近所の卵の直売所やコンビニのスタッフさんとは馴染みの人や場になっている。地域の祭りの会場も馴染の場のひとつである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と話し合いながら、要望があれば支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。	利用者と職員の相性を見て、コミュニケーションが円滑になっている。普段から言葉をかけて暮らしの希望を把握している。表情やしぐさを見て思いに気づき、困難な場合は、家族に聞いたり、入居前に利用していた事業所の関係者から情報収集を得ている。お風呂場が、一番のコミュニケーションの場となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合いながら、介護計画に反映できるように努めています。	入居時にプランを立て、認定の更新時と変化があった時にプランを再度見直している。その際は、医師と家族と相談をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで、話し合い、処遇に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さい事業所ならではのサービスを工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を配慮した上で支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の希望および本人の状況に忘れてかかりつけ医の受診を支援しています。	提携医の連携がしっかりしているので、利用者は、提携に転医される。24時間体制の下、協力医が月2回訪問している。皮膚科と泌尿器科も月に2回、歯科、訪問看護の訪問があり、医療関係者とは、いつでも相談や情報交換できる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医とも連携し、適切な看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病院の医師、看護師、ワーカー、訪問看護師等とも連携し、積極的に支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護師と連携し、支援していきます。	入居時、看取りの指針について説明している。協力医からターミナルの宣告があれば、その都度、協力医より家族に説明を行っている。訪問看護を中心に急変時の対応等について勉強会を実施している。毎年、1名以上は、看取りがあり、どの職員も経験豊富なので、利用者の喜ぶような対応が出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っています。 防災計画マニュアルを策定し、非常時に備えています。	年に2回、火災訓練を昼を想定して行い、利用者と一緒に。備蓄は、1-2日程度を用意。運営推進会議の場で、実施状況を報告している。	地元の消防団や町内の方に、参加を仰いで如何でしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性を大切にしながら、工夫して支援しています。	お風呂は必ず、一人ずつ入れる。居室で更衣する。呼称は、本人と相談して、相性や下の名前で呼んだりする事がある。夫婦の方には、下の名前で呼ぶ。居室へ入・退室したり、入浴時の露出度が高い時の対応など、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけ及び対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの個性を大切にしながら、選択を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの個性を大切にしながら、洋服や髪形など個別に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に決めたりしています。	三食手作り。おやつも手作りで、どちらも季節を感じてもらえるような献立にしている。敷地の畑でほうれん草や大根、白菜やキャベツや夏野菜等を収穫したり、毎月、農協から届く旬の野菜や、目の前の竹やぶで筍を取っつくしやタラの芽やわらびやヨモギなどの山菜を食谷上げる等して、食事が楽しくなる様に工夫している。煮干しの頭とわたを取ってもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医、歯科衛生士と連携し、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの状態に合わせてトイレ誘導をしています。	個々の排泄パターンに合わせて、声かけ・誘導している。自立されている方が多いので、自分の意志で気を遣わずトイレに行ける様な雰囲気を作っている。部屋の中でパットの確認をしたり、食事の後に、本人にだけ分かる様にして声をかけて誘導をする。ポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の薬の回数の調節や便秘予防の食材を摂れるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態や希望に合わせて入浴を支援しています。	週3回の入浴を基本とし、個別にケアをしており、利用者が、特に本音を話す時間となっている。また、入浴の順序を変えたり、珈琲タイムのついでに言葉かけたりして、気分よく誘導できる様にしている。温度調節を、整は各自で行い、庭で採れた柚子湯や金冠、自然のミカンなどの柑橘類を入れて、香りや雰囲気を楽しんでもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせた起床・入眠時間を調整して生活できるように援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と連携し、薬剤師による居宅療養管理指導を受けながら、一人ひとりの状態に合わせた薬を提供できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた役割を考慮して、楽しんで生活できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に合わせた活動を、家族に協力してもらいながら援助しています。	家族が親戚の家に連れ出すときに外食も楽しんだり、日頃から散歩や日向ぼっこ、ゴミ捨てや洗濯物干し等を手伝ってもらっている。また、職員と一緒に畑の水やりや草抜き、季節野菜を収穫したりして、日常的な外出を職員と一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に協力してもらいながら、援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをしたり、快適な温度・湿度になるよう配慮しています。	自然と共用している空間がここにある。山道の先にある平屋のホームで、自然に囲まれており、利用者が職員と一緒に、普段から敷地に出て日向ぼっこを楽しめる、こじんまりして家庭的で居心地が良い。天窓から注ぐ暖かい光が、明るく快適に過ごさせてくれる。フロアには、利用者で作った季節の作品があり、庭先で採れた花を飾ったりして、季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症の施設という中で、工夫をして支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、なじみの家具を持ち込んだりするなどの、工夫をしています。	どの居室の窓からも、野山の草木や花が見えて癒される。居室は、思い出のアルバム、ぬいぐるみ等で、さりげないおしゃれをして飾られており、個々に居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の施設という中で、工夫をしています。		